

地球環境新聞

地球環境新聞社 東京都中央区日本橋蛎殻町1-2-1 電話(03)5645-8241 www.env-news.net

レ
創刊号

次の一手

カルファケミカル

社長 小池 恵治氏



「不況、デフレ時代には企業の大額な設備投資の削減が求められる。企業が積極的に環境対策に取り組むことで、コストの削減に繋がれば、人の環境も飛躍的に改善する。」こう語るのはカルファケミカル(神奈川県鶴見区鶴見中央1-19-16)の小池恵治社長だ。

同社の主力商品カルファバスは、クリーニングタワーの無リン化を可能にする。

EU域内で販売されるほとすべての化粧物質の安全性を評価するREA規制をクリアし、EUでは絶大な支持を得る同社が、既成概念の従来の価値観にどうわざず開

発した水処理剤「カルファバス」。環境基準、環境意識が高いEUで鍛えられた同社は、EU市場からなるなる市場拡大を目指す。本紙は小池社長に同水処理剤の特徴と環境ビジネスの展開を

きについておれ、考えてこ

なった。それは飲料水のみならず、海や空気中に排出する生活・工業用水に対しても同じことです。

1960年代以降、日本でも排水についての考

え方が少しずつ変化し、今

汚染された水を

浴びる危険にさらされて

います。つまり人間の細胞に優しくない。これが、

汚染された水を

浴びる危険にさらされて

ます。私も常にその

立地条件を含む設備環境、

水質熱交換率や温度など

すべてのデータを集め、

今後の治療と健康管理、

を進めていきます。

—製品についてどのように評価を得ていますか

(小池) 安全性、効果

、コストについて、日本

は、わざか0.0

07%。日本人

は昔から「水と

安全はタダ」と

思っており、水

があまりにも身

近な存在である

ために水の大切

さが出てきました。

—カルファバスの開発には、どのような背景がありますか

(小池) 地球は水の惑星

と言われていますが、飲

料水として使用できるの

ではない。それでも、

何で家庭用洗剤できても

無リン化が一般的になっ

ている。それにもかかわ

らず、どうして工業用排

水や大規模店舗からのり

んの排水には無関心なん

でしょう。

(小池) 現在、日本で

クリーニングタワーに使

用されている水処理剤は、

ほとんどが有機リン系で、

済むわけです。ゴミをど

う処理しリサイクルする

スケール成分を水に溶け

た状態に保持することに

が待ち受けています。昨年、政

権がかわり、「コンクリートか

抑えていたものの、無リン化

が登録されていない物質は、

企業は受け入れてくれな

いし、環境ビジネスも成

り立たないでしょう。

当社は、EUでの販売

実績を活かし、これから

の日本でも確実に需要は

増えると自信を持っています。

環境対策は、これま

でも、おそらくこれが

でも、おそらくこれが</